子どもにやさしいまちづくり委員会資料
元．５．２７
こども育成課

「松本市子どもの権利に関するアンケート調査結果」（2019年3月）について

アンケートを次期計画に生かしていくために前回の委員会（平成３１年３月２６日開催）時に出た意見は次のとおりでした。

項目	意見等
１　条例の認知度について	中間報告での数値目標は、７５％の認知度を目標としたが、上がってきてはいるがまだ大幅に未達成。この数字をどのように次の施策につなげていくか。「知らない」と答える割合は大幅に減少している。「内容まで知っている」までいくことが必要。 調査結果のまとめについては、**自己肯定感が向上していることは積極的に記載**していく。同時に、自己肯定感を育んだ結果がどのような数字で表れているというところも入れること、**高校生、親、地域住民に対する条例等の周知が十分ではないところを挙げてその方面への取組みを強めること**を課題としてまとめていく。
２　こころの鈴の認知度について	中間報告で５人中４人が知っている状況をつくりたいと、目標値を設定した。６４．８％が知っていると答えたという結果のため、まだ少ないものの、「名前を知っている」と答えた数が相当増えている。これは広報活動の重要な成果。 現在の複雑でリスクの高い社会の中で、子ども自身がＳＯＳを出せないと考えて、委員会で目標を設定したので、努力は認めたうえで、**更に向上させるにはどうしたらいいか、第２次計画に反映**していくべき。 認知度が上がらない理由のひとつには、高校生への周知が問題。高校生の認知度が上がれば目標に届く。高校生は、「どのような方法で相談したいと思うか」の項目について、「ＳＮＳ」と答えた子が半分近くいる。周知の方法として、ＳＮＳを含め、様々な手段を用いることなど、**特に高校生への周知を検討していく必要があるのではないか**。 全体に、こころの鈴だけでなく、条例の認知度も含めて高校生が数値を下げている。小中学校については行政が直接働きかけられるが、**高校にいかに協力してもらうか、今後の計画の中でも独自に検討していく必要がある。**
３　自己肯定感について	自己肯定感を育むことが何につながるか、自己肯定感を育まないとどうなってしまうかが、この調査ではっきりでた。**自己肯定感の高い子にどんな傾向があるかを全体のまとめに入れても良いのではないか。**クロス集計のところについては、有意差が出ているところが多いので、選ぶのが難しいが検討していく。

項目	意見等
４　「困っているとき誰に相談するか」について	「親」と答える子が一番多く、「こころの鈴」が０．９％という数値になっている。子ども側からすると、親に一番相談したいけれども、今回の親子ペアのアンケート分析からすると、親と子の間に認識のずれがある。**親の意識を変えていく必要、親に対する教育というようなものが、もう少し必要なのではないか**。
５　子供の意見を吸い上げることについて	このアンケートから、子どもたちにもたくさんの意見があることがわかった。こころの鈴へ相談するほどではないけれど、何らかのかたちで大人に意見を言いたい子がいることがアンケートで分かる。**市長への手紙の子ども版**みたいなものがあると良いのではないか。もらった意見を１００％実現することは難しいけれど、**意見を言えば少しは大人も動くことが分かってもらえるような仕組みが**あると良い。子どもの意見を可視化して、吸い上げ、共有して、大人と子どもが一緒に動いていける形に。 子どもたちの条例ができたことへの評価として、条例があっても自分には関係ないとか、何のため条例があるのかわからないとか、どうせ何も変わらないといった意見が多く見受けられた。条例を制定することで、**大人が与える段階から脱却して、子ども自身に何ができるかというところまで持っていきたい。**
６　各機関との連携について	自由記述の中に、「条例ができることが大切なのではなく、各機関が子どものためにどう連携するかが大切だ」という言葉がある。これからさらに**具体的な施策**が動き出せば良いのではないか。
７　条例を活かすために	条例を活かすには、何が必要かということを付け加えるか、**目に見える形にしていかないと**各機関との連携・協働は進まない。条例の広報・普及啓発にあたって、**条例の中身だけを周知するのでは不十分な段階にきているのではないか。**条例を更に活かすにはどうするのかを考えていくことが大事。
８　総論として	中間報告でも総論として述べたように、計画は着実に定着、前進しているが、**更に推進していくためにはどうしたら良いかを考える必要がある。** 中間報告でも、子どもの意見表明・参加のところについて、新たな取組みの必要性を提起されている。このまま推進していけば良いというわけではなく、**新たな仕組みを作っていかなければ、更に数字を向上していくことにはならない。それを第２次計画には盛り込みたい。** 子どもも含めて松本のまちづくりを進めて行く条例を実施していくために、どういう仕掛けが必要か、**第２次計画で、少なくともいくつかの仕掛けをしていきたい。**